

第5章

学びがいのある魅力的な教育環境づくり
を進めます

テーマ13 「教員の資質能力の向上・多忙化解消への支援と開かれた学校づくりへの取組」

■ 背景(課題)

学校における教育活動の充実のためには、広い教養と豊富な専門知識・技能を備え、児童生徒に愛情を持ち、教育に情熱と使命感を持つ教員を確保していくことが必要である。

昭和50年代に数多く採用された教員が退職期を迎える中、教員の採用においては、幅広い視野を持ち個性豊かでたくましい人材を教員として確保することとともに、教員自身が常に学び続ける意識を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていく必要がある。

一方で、平成29年4月に公表された文部科学省による教員勤務実態調査によると、厚生労働省が過労死の労災認定の目安としている月80時間の時間外労働に相当する、1週間当たり60時間以上勤務している教諭が、小学校では全体の33.5%、中学校では全体の57.6%となっており、この調査結果を受けて、教員の長時間労働の改善策について、中央教育審議会において検討が進められている。

教員が誇りと情熱を失うことなく、意欲・やりがいを高め、健康で充実して働き続けることができるようにしていくことは、教員が一人一人の子どもに丁寧に関わりながら、質の高い授業や個に応じた指導を実現していくための重要かつ喫緊の課題であり、教員が学習指導、生徒指導などの本来的な業務に専念できる環境づくりを進めていく必要がある。

また、社会の在り方が大きく変化する中で、日々、複雑化・多様化する教育課題に対応していくためには、学校、家庭、地域が責任を分かち合い、連携協働しながら、社会総掛かりで地域の子どもの教育に取り組んでいくことが重要となっており、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を整備していく必要がある。

■ 関連する施策の実施状況

○愛知県教員育成指標の策定

教員等が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付けるべき資質・能力を明確化するために、「愛知県教員育成指標」(以下「指標」という。)を平成29年11月に策定した。この「指標」は、平成28年11月に公布(施行は平成29年4月)された教育公務員特例法の一部改正法を踏まえて策定したものであり、教員として、自分が現在どのキャリアステージにいて、どのような力を発揮する必要があるのか、次に何を目指していけばよいのかを考え、行動するための道しるべとなるものである。

○愛知県教員研修計画の作成

「指標」の策定を受け、県総合教育センター、県教育委員会各課室及び各教育事務所・支所において実施する全ての研修を整理し、本県の教員研修の全体計画として、平成30年3月に「平成30年度愛知県教員研修計画」を作成した。また、

新たに「教員研修計画策定会議」を設け、教員の多忙化解消にも資する効果的かつ効率的な研修の実施に向けて、「指標」を踏まえた研修体系・研修計画の再構築を図っていくこととした。

(再構築の方針) ※ 平成33年度完成を目指して段階的に見直す。

- 1 「指標」を踏まえた研修計画の見直し
- 2 法律の改正に基づく中堅教諭等資質向上研修の新たな体系づくり
- 3 研修を円滑に実施するための支援
- 4 実施形態の工夫とOJTの積極的活用

○特別選考の充実

教員採用選考試験において、経験や実績が豊富な人材を積極的に採用するために、これまでも教職経験者や芸術・スポーツの分野で秀でた技能や実績及び経験を有する人材、民間企業の経験者などを対象とした特別選考を実施してきたところであるが、一層の充実を図るため、平成30年度採用選考試験（平成29年実施）の「外国語堪能者選考」でフィリピン語（タガログ語）を追加した。

○教育研究リーダー養成研修の実施

理論的・実践的な教育研究を通して、課題解決能力とともに、教職員の意見の違いや対立を整理、調整するなどして組織の活性化を図り、「チーム学校」を実現する力を身に付けたミドルリーダーの育成を目指す研修を実施した（小・中学校、高等学校、特別支援学校の教員48名が参加、夏季休業中を中心に12日間の研修を実施）。

○「教員の多忙化解消プラン」に基づく取組の推進

平成29年3月に策定した「教員の多忙化解消プラン」に基づき、長時間労働の是正に向けた具体的な取組を実践する検証校（小・中・高各1校）を設定し、業務改善の取組を実施するとともに、部活動指導ガイドラインの検討を進めた。「教員の多忙化解消プラン」に基づく取組全体については、フォローアップ会議の開催により、進捗状況の点検を行った。

また、学校関係者に取組を周知するためのリーフレットを市町村教育委員会、市町村立小中学校（名古屋市除く）、県立学校へ配布するとともに、市町村教育委員会が県教育委員会と連名で保護者に協力を求めるための文書を作成し、市町村教育委員会に配布した。

【教員の多忙化解消プラン「具体的な取組の柱」】

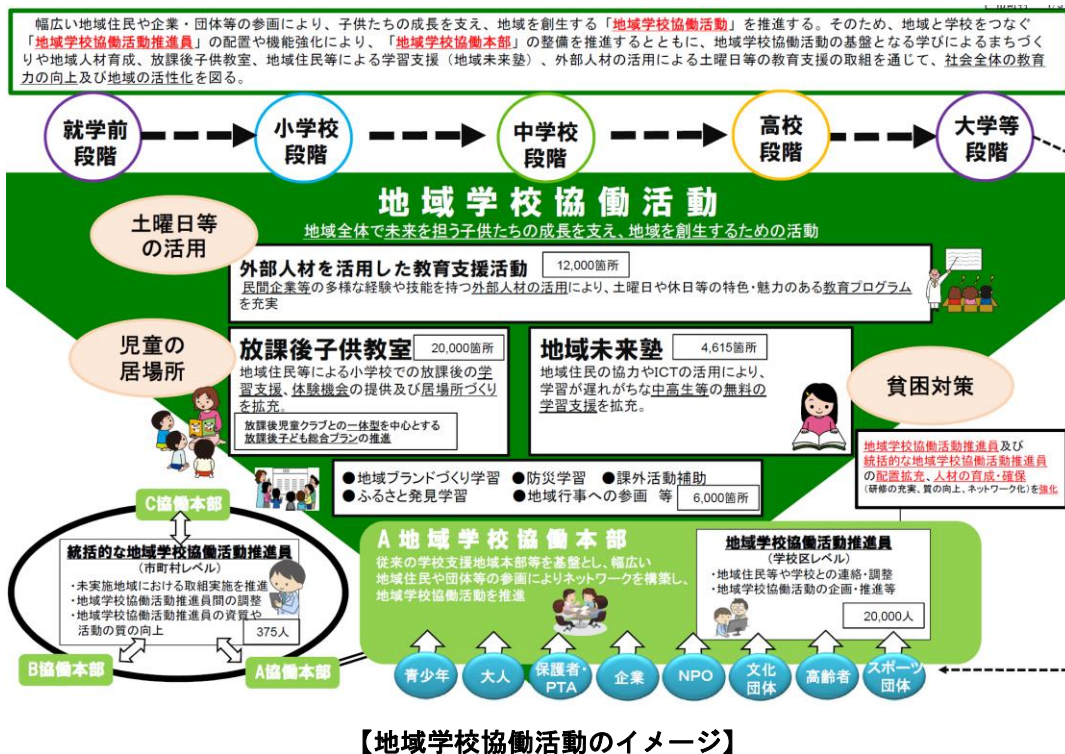
- (1) 長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化
- (2) 業務改善に向けた学校マネジメントの推進
- (3) 部活動指導に関わる負担の軽減
- (4) 業務改善と環境整備に向けた取組

○地域学校協働活動推進体制づくりへの支援

「地域学校協働本部推進会議」を年4回開催し、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するための施策について総合的に協議した。

また、「地域コーディネーター等研修会」を4回開催し、先進地区の地域学校協

働活動の事例や「地域未来塾」の紹介、グループワークを行い、地域学校協働活動の推進に向けて、コーディネーター技能の向上や、地域住民と学校との連携協力体制の整備についての理解促進を図った。



■ 取組の成果

- 平成 30 年度教員採用選考試験（平成 29 年実施）では、合格者 1,480 人の内、元教諭・講師特別選考 188 人を始めとして、特別選考で 450 人が合格者となり、経験や実績が豊富な人材を積極的に採用した。

【教員採用選考試験の志願倍率の推移】

年度	採用予定者数（人）							志願者数（人）	倍率
	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭	合計		
26	700	330	360	110	60	10	1,570	9,325	5.9
27	700	330	330	120	50	10	1,540	8,814	5.7
28	700	330	300	120	40	10	1,500	8,284	5.5
29	700	300	300	120	40	10	1,470	8,165	5.6
30	700	300	280	130	50	20	1,480	7,788	5.3

- 教員の多忙化解消に向けた取組については、平成 29 年度は取組実践検証校において業務改善計画を作成し、目標や課題、取組内容等を「見える化」して業務改善の実践につなげることができた。また、フォローアップ会議における進捗状況の点検により、次年度以降に向けた課題を明確にすることができた。
- 学校関係者向けのリーフレットや、市町村教育委員会が県教育委員会と連名で保護者に協力を求めるための文書の配布により、教員の多忙化解消に向けた取組について周知を図ることができた。
- 「地域コーディネーター等研修会」には各地から延べ 246 名が参加し、県内外

の先進地区の地域学校協働活動の事例、大学教授の講義やグループワークを通じて、地域住民等と学校との連携協働体制づくりの進め方についての理解を深めた。また、研修会の内容や、先進地区の事例、「地域未来塾」を実施している市町の取組を報告書にまとめ、県内全市町村に配付した。

【「地域コーディネーター等研修会」参加者の声】

- 地域学校協働本部の現在の活動状況だけでなく、協働本部が作られるまでの道のりがわかり、参考になった。元PTA役員の方や地域の方の応援が素晴らしいと思った。
- 地域未来塾のことが全くわかっていなかったのがとても良かった。運営の実際を聞き、ボランティアを集める大変さを知ることができた。
- 他県の取組に対して共感を得た。公民館と学校の連携など、視野を広げることができた。

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

- ・ 平成31年度教員採用選考試験（平成30年実施）では、青年海外協力隊の派遣実績による「社会人特別選考」において、従来の小学校教諭、中学校教諭に新たに高等学校教諭、特別支援学校教諭を加えることとし、多様な経験を有する人材の確保に努めていく。
- ・ 「教員の多忙化解消プラン」に基づき、平成30年度は、取組実践検証校の対象校を増やして他の地域・学校へ展開（中1校、県立高2校、県立特支1校）して成果の普及を図るとともに、部活動指導ガイドラインを作成し、フォローアップ会議で進捗状況の点検を行っていく。
- ・ 「長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化」についての取組として平成30年度に県立学校5校にICカード読取機を試行導入し、教員の出退勤時刻を電子記録化する。
- ・ 「地域学校協働本部推進会議」を開催し、地域学校協働活動の推進体制に関するビジョンの明確化や諸活動の改善等に向けて協議する。また、「地域コーディネーター等研修会」を開催し、コーディネート技能の向上や、地域住民と学校との連携協力体制の整備についての理解促進を図っていく。

〈長期的に取り組むこと〉

- ・ 関係大学等で構成する教員資質向上協議会を活用して、地域の課題や学校現場の状況を指標や研修計画に反映させることにより、本県の実情に応じた人材育成を図っていく。
- ・ 教員の多忙化解消については、「教員の多忙化解消プラン」に基づき、専門スタッフの配置、教職員定数の確保等、学校の組織体制の充実に取り組んでいく。
- ・ 地域学校協働活動推進員やコーディネーターの配置とともに、「地域未来塾」、「放課後子ども教室」及び「土曜日の教育支援活動」等の活動実績を踏まえ、地域の実情に合わせた地域学校協働本部の組織化を進め、学校を核とした地域づくりの充実に図っていく。

（関係課室：教育企画課、教職員課、生涯学習課、高等学校教育課、義務教育課、特別支援教育課、総合教育センター、私学振興室）

テーマ 14 「学校施設・設備の充実」

■ 背景(課題)

(非構造部材の耐震対策)

県立学校施設の耐震対策については、平成 28 年度までに構造体（建物）の耐震化が完了し、今後は、東日本大震災等の際に多くの学校で被害のあった天井材、内外装材、照明器具などの非構造部材の耐震対策に取り組む必要がある。

なお、非構造部材の中でも特に危険性の高い体育館吊り天井の耐震対策については、28 年度末までに完了した。

市町村立小中学校についても、児童生徒の安全確保を図るとともに、災害時には避難所としての役割を果たすため、それぞれの市町村において計画的に耐震対策が行われている。

【公立学校施設の屋内運動場等における吊り天井等の耐震対策(29.4.1 文部科学省)】

区 分	耐震対策済率	
	愛知県	全国平均
小・中学校	96.1%	97.1%
高等学校	63.1%	91.8%
特別支援学校	84.4%	98.3%

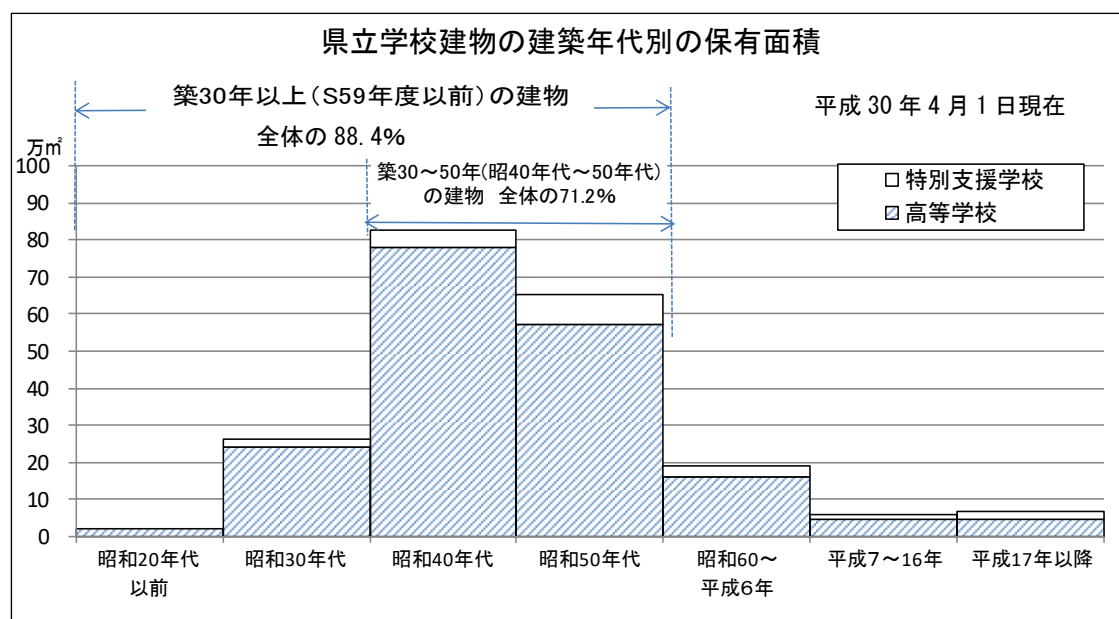
※屋内運動場等は、体育館、武道場、屋内プール及び講堂の4施設である。

※耐震対策済率には、吊り天井のない屋内運動場等を含む。

(施設の老朽化対策)

県立学校の建物については、施設総量は 3,223 棟、延べ床面積は約 210 万㎡にのぼり、築 30 年以上経過の建物が全体の 9 割近くを占めており老朽化が進んでいる。また、昭和 40 年代から 50 年代の生徒急増期に建設した建物が全体の約 7 割を占めており、今後、多額の改修、更新費用が必要となってくる。

市町村立小中学校についても、老朽化対策は喫緊の課題となっている。



（特別支援学校の教育環境の整備）

体温調節が困難な児童生徒や肢体不自由など、子どもたちの障害による身体的な負担に配慮し、冷房設備や洋式トイレなど近年の生活様式に対応した施設整備を進める必要がある。

（理科教育・産業教育設備の整備）

子どもたちの理科への興味・関心を、将来の科学技術に関する学びや職業につなげていくために、子どもたちの知的好奇心や探究心を刺激し、科学的な見方や考え方を養う学びを工夫する必要がある。

県立高等学校における職業学科では、実験実習で使用する産業教育設備を、約4万件保有しているが、老朽化に伴う故障や制度・性能の低下等により、期待する実習効果が得られないなどの支障が生じている。

本県産業の発展に対する県立高等学校の役割を果たし、職業教育の一層の充実を実現するためには、老朽化している設備を更新するとともに、進展する産業技術に対応した新規設備の整備を進めていく必要がある。

■ 関連する施策の実施状況

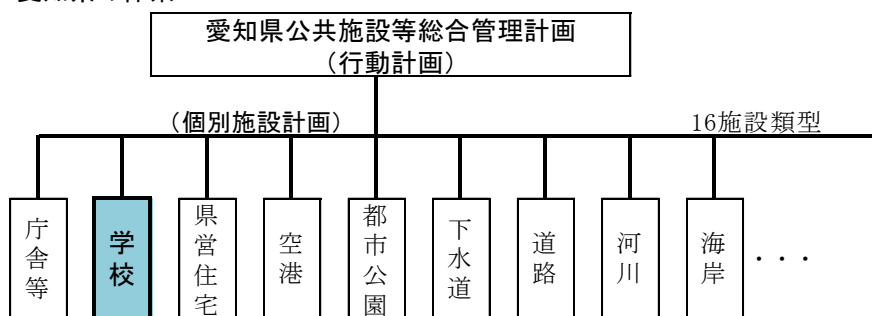
○非構造部材の耐震対策

県立学校については、体育館に引き続き、武道場や温水プール等の吊り天井の耐震対策に取り組むこととし、平成29年度に次年度以降の工事のための設計に着手した。

○施設の老朽化対策

本県では、平成27年3月に「愛知県公共施設等総合管理計画」を策定し、次のステップとして、平成32年度までを目途に16施設類型ごとに個別施設計画を策定することとしている。

《愛知県の体系》



県教育委員会では、学校の個別施設計画にあたる「県立学校施設長寿命化計画（以下「長寿命化計画」という。）」を平成30年度末までに策定することとし、平成28年度に「県立学校施設長寿命化計画策定に関する基本方針（以下「基本方針」という。）」を策定した。

また、平成28年度及び29年度に築60年経過建物のモデル調査を実施し、築80

年まで長寿命化するために必要となる改修内容等を調査した。

○特別支援学校の教育環境の整備

特別支援学校における冷房設備の設置やトイレ改修等については、平成 29 年度から次年度以降の工事のための設計に着手した。

○理科教育・産業教育設備の整備

理科教育設備について、観察・実験などを通して実物に触れて探究的な学習を実施することができる教育環境を整備した。

特に更新が進まない 100 万円以上の産業教育施設・設備について、老朽化の状況等を勘案し、更新が必要な機器をとりまとめ、整備計画を策定するとともに、計画的且つ継続的に設備の更新を行っている。

平成 29 年度は、100 万円以上の重要物品については、19 校に 26 件の設備を整備することができた。また、100 万円以下の少額備品の整備や故障が生じた備品の修繕についても、28 校に 152 件の設備を整備することができた。



【産業教育設備：FA実習装置】

■ 取組の成果

・非構造部材の耐震対策

県立学校における非構造部材の耐震対策を推進するため、体育館に引き続き武道場等の吊り天井の耐震対策に取り組むこととし、平成 29 年度は次年度以降の工事のため、28 校 28 棟の設計を実施した。

・施設の老朽化対策

県立学校においては、特に老朽化が著しく、一刻も早い改修が必要な建物について、長寿命化計画の策定を待つことなく、平成 28 年度から大規模改造工事の設計に着手し、29 年度は 11 校 15 棟の工事を実施するとともに、次年度以降の工事のため、7 校 8 棟の設計を実施した。

・特別支援学校の教育環境の整備

特別支援学校の教育環境の整備を推進するため、以下の施設整備を実施した。

冷房設備の設置	設計	14 校	284 教室
トイレ改修（洋式化等）	設計	4 校	40 か所
聾学校緊急通報装置の設置	設計	5 校	610 器
防犯カメラの設置	リース	29 校	66 台

・理科教育・産業教育設備の整備

理科教育設備のより一層の充実を図り、観察・実験などを通して実物に触れて探究的な学習を実施できるよう教育環境の整備に努めた。

本県の産業教育設備整備費は、平成4年度をピークに減少傾向にあったが、平成26年度を底に上昇に転じ、既存設備の老朽化対策とともに、整備状況が改善しつつある。

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

- ・ 武道場等吊り天井の耐震対策については、平成34年度までの完了を目指して計画的に取り組んでいく。
- ・ 平成28年度に策定した基本方針に沿って、改修等の内容や時期、費用等を整理し、平成30年度までに長寿命化計画を策定する。
- ・ 特に老朽化が著しく、一刻も早い改修が必要な建物については、平成31年度までに大規模改造工事を実施していく。
- ・ 特別支援学校においては、聾学校緊急通報装置を平成30年度に、冷房設備の設置を32年度までに、トイレ改修については33年度までの完了を目指して、それぞれ計画的に取り組んでいく。
- ・ 市町村立小中学校に係る長寿命化計画の策定については、平成32年度までに策定するよう、引き続き各種会議等の場で周知していく。
- ・ 理科教育設備の充実を図るために必要な予算措置を講じていく。
- ・ 産業教育施設・設備の整備計画当初に一刻も早く更新が必要であった設備を優先して整備していく。
- ・ ものづくり愛知を支える職業教育の充実として、第2期の県立高等学校教育推進実施計画に、産業教育設備の長期的な整備計画の指針を示す。

〈長期的に取り組むこと〉

- ・ 平成30年度に策定する長寿命化計画に基づき、第1期計画期間にあたる平成31年度から41年度までの11年間で県立学校の施設改修を実施していく。
- ・ 理科教育設備のより一層の充実を図り、観察・実験などを通して実物に触れて探究的な学習を実施できるよう教育環境の整備に努めていく。
- ・ 県立高等学校教育推進実施計画に基づき、職業学科で学ぶ生徒がそれぞれの専門分野の基礎的・基本的な技術・技能を習得できる環境を整えとともに、地域や産業界のニーズに対応するため、実習用設備を計画的に整備していく。

(関係課室：財務施設課、高等学校教育課)

テーマ 15 大学との連携と私立学校の振興

■ 背景(課題)

(大学との連携)

県立高校の約 8 割弱が大学と何らかの連携を行っているが、高校と大学が相互のニーズを把握し、高大連携による魅力ある教育活動を一層推進する必要がある。

また、小・中学校においても、大学生の支援を必要とする機会が増えており、大学と小・中学校との連携を組織的に進めていく必要がある。

(私立学校の振興)

私立学校は、創立時の建学の精神や独自の校風のもと、特色ある教育を実践しており、幼稚園では 89%、高等学校では 32%、専修学校では 95% の園児生徒が在籍し、本県の公教育において重要な役割を担っている。

本県では、私立学校の健全な発展を促進し、保護者負担の軽減、教育条件の維持向上及び経営の安定化を図るために、全国的にも高水準の助成策を講じている。

また、「愛知県公立高等学校設置者会議」において、中学 3 年生の進路実現に向けた課題や取組について継続的に協議を行い、本県全体の教育水準の向上を図っている。

高等学校全日制課程の生徒募集に当たっては、中学 3 年生の進路希望状況などを踏まえ、公私間協議により計画進学率を 93% とし、公私 2 対 1 の比率で募集枠を設定しているが、進学実績は 90% 程度と、計画と実績の間に差が生じている(図表 1)。近年、私立高校では生徒募集枠に対し 2,000 人程の欠員が生じているが、平成 30 年度には、欠員が 1,664 人となり、前年度の 1,983 人より減少した。今後も少子化傾向が進む中、生徒の確保・経営の安定化が課題となっている。

【図表 1 : 中学 3 年生の進路希望状況及び進学率】

年 度			27	28	29	30
中学卒業生数			73,625 人	73,336 人	72,657 人	71,425 人
進路希望 状況調査	9 月(第 1 回)		93.8%	93.9%	93.7%	93.6%
		公立	78.0%	78.2%	77.9%	77.3%
	12 月(第 2 回)	私立	13.6%	13.7%	13.6%	14.0%
			92.1%	92.4%	92.0%	92.1%
全日制+高専 進学希望率	公立		70.1%	70.5%	70.1%	69.5%
		私立	19.6%	19.7%	19.5%	19.9%
進 学 率	計 画	(全日制+高専)	93.0%	93.0%	93.0%	93.0%
	実 績	(全日制+高専)	90.0%	90.4%	90.0%	90.1%
	乖 離	(計画-実績)	3.0%	2.6%	3.0%	2.9%

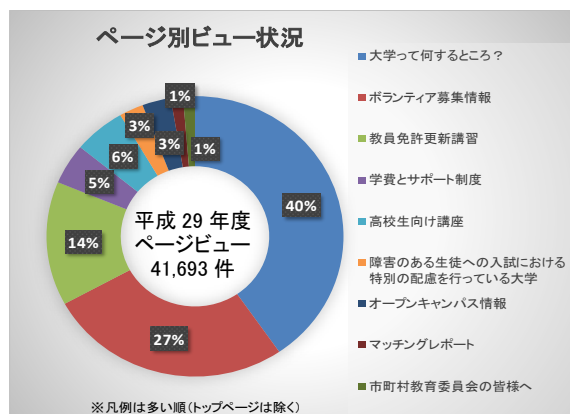
■ 関連する施策の実施状況

(大学との連携)

○あいちの学校連携ネット

「あいちの学校連携ネット」(県内 50 大学と県教育委員会との連携事業、平成

24年度開設)により、大学が高校生向けに行う講座情報や、教員免許更新講習情報、市町村教育委員会等が募集する「学生による学校現場での学習支援ボランティア」情報等を掲載し発信した。



○大学と県教育委員会との連携推進会議

平成 29 年度は高大連携及び学校インターンシップをテーマとして、参加を希望する大学による分科会を開催し、本県の教員育成指標等に関する情報提供など意見交換を行った。

【あいちの学校連携ネットの運用】

○大学・企業と連携したスポーツ事業

「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結している県内の中京大学、至学館大学、東海学園大学と個別に推進協議会を設置した。また、トヨタ自動車ヴェルブリッツとの連携によるジュニア選手育成事業を実施した。

連携先	内 容
中京大学	講師によるコアトレーニングの講義と監督によるハンドボール実技指導(参加者 79 名)を実施
至学館大学	大学教授による栄養学講義及び実習とジュニアアスリートに適したトレーニング実習(参加者 53 名)を実施
東海学園大学	大学准教授によるサッカー選手のフィジカル強化の考え方の講義と大学講師による初速を高めるスプリントトレーニング(参加者 28 名)を実施
トヨタ自動車	トヨタ自動車ヴェルブリッツスタッフ及び選手によるラグビー実技講習会(参加者 79 名)を実施

○総合教育センターと大学との連携

平成 29 年度時点で 4 大学と協定を締結しており、大学と共同して教育研究調査事業(3 件)を実施した。また、大学教授等(128 人)を講師として各種研修・講座を実施した。

○愛知県立大学、愛知県立芸術大学における高大連携、地域連携の取組

愛知県立大学の事業として、高校における大学の模擬授業や、県立大学教員、県立大学出身の高校教員を講師とする高校教員向けの研修会等を実施した。

愛知県立大学における一般向け学術講演会、公開講座、公開授業、また、愛知県立芸術大学における、一般向け展覧会、演奏会、芸術講座の開催により、県民が学術、文化、芸術に親しむ機会を創出した。

(私立学校の振興)

○私立学校に対する助成、私立学校に通う保護者負担の軽減

私立学校の設置者に対する補助を実施するとともに、保護者負担の軽減を図るため、私立高等学校全日制課程の入学者への入学金に対する補助や、私立高等学校や専修学校等に通学する生徒への授業料に対する補助を実施した。

○多様な教育を受ける機会の確保

私立幼稚園が実施する幼児教育に関する各種講座、保護者に対する教育相談などの活動への支援や、外国人学校への支援を実施した。

○公私間連携の推進・協力

県、名古屋市、私立高等学校設置者において、生徒募集計画及び中学3年生の進路実現に係る公立高等学校と私立高等学校に共通する教育課題について協議し、公私間の連携・協力を深めながら本県全体の教育水準の向上に努めた。

■ 取組の成果

(大学との連携)

・あいちの学校連携ネット

「学習支援ボランティア募集情報」は、教職志望の学生からのアクセスが多く、募集の一助となっている。また、「学費とサポート制度」、「障害のある生徒への入試における特別の配慮を行っている大学」のアクセスは、各5%、3%となっており、県民等への情報提供に一定の役割を果たしている。

・大学と県教育委員会との連携推進会議

高大連携及び学校インターンシップに関する率直な意見交換を通して、受け入れ態勢の整備や事前指導の必要性などの課題を共有することができた。教員育成指標を踏まえた教員研修の相互協力について理解を深めることができた。

・大学・企業と連携したスポーツ事業

高い専門性を有する講師と日本トップレベルの競技力を有する講師から指導を受けることで、県内トップレベルの競技力をもつ参加者の競技に対する意欲が高まった。

・総合教育センターと大学との連携

大学教授等を講師として実施した研修・講座では、最新の情報や俯瞰的視野からの知見を得ることができ、受講者の資質・能力の向上につながった。

・愛知県立大学、愛知県立芸術大学における高大連携、地域連携の取組

大学の魅力を高校に伝えるとともに高校生や高校教員のニーズを的確に把握することで相互の教育の充実に寄与している。大学における研究成果を地域に発信するとともに、生涯学習支援、地域文化を担う人材の育成等に貢献している。

・高大連携の取組

普通科コースの新設・改編に伴い、大学と高等学校の間で協定を締結するなど、高大連携の取組が進んだ。

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

(大学との連携)

- ・ 「あいちの学校連携ネット」については、最新の情報を提供できるよう掲載内容の見直しを適宜図る。また、毎年度、大学や市町村教育委員会に対して情

報の更新を依頼しているが、機会をとらえて、さらに情報の更新等を大学等に呼びかける。また高校生や大学生向けに、活用促進のためのチラシを作成、配布するなど、広報活動を行っていく。

- ・ 大学と県教育委員会との連携推進会議については、当面分科会開催とするが、テーマや開催時期を固定することなく、必要に応じて柔軟に対応できるよう、幹事大学と情報交換を行う。
- ・ 今後、「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結している日本体育大学、中京大学、至学館大学、東海学園大学や企業等と連携した県独自の事業実施を検討していく。
- ・ 「あいちSTEMハイスクール研究指定事業」、「県立高等学校教育課題研究指定校事業」において、高大接続の在り方を含む研究を進め、平成30年度に発表会を開催し、その成果の普及を行う。

(私立学校の振興)

- ・ 公私間の協議の機会を捉え、これからの公私のあり方について意見交換を行い、具体的な対応策を検討していく。

〈長期的に取り組むこと〉

(大学との連携)

- ・ 「あいちの学校連携ネット」は民間事業者に開発と管理を委託しているが、県側で構造の変更ができない仕様となっている。今後、自由度の高い仕様への変更を検討していく。
- ・ 高等学校と大学が長期的に連携できる体制づくりを進めるとともに、高大接続の在り方について検討していく。

(私立学校の振興)

- ・ 私立学校における建学の精神に基づいた多様な教育を受ける機会を確保し、幼児児童生徒がそれぞれの能力・適性にふさわしい教育を受けることができるよう私立学校の教育条件の維持及び向上を図る。

(関係課室：教育企画課、財務施設課、高等学校教育課、義務教育課、保健体育スポーツ課、総合教育センター、私学振興室)

公益社団法人愛知県私立幼稚園連盟には、愛知県内の全ての私立幼稚園が加盟し、様々な教育研究・教員研修を実践している（加盟園 417 園）。

① 教育研究の実施

【課題研究の実施】

毎年、1年間をかけて課題研究を行い、それを研究紀要にまとめ、全園並びに関係諸機関に配布している。平成 29 年度は、以下の内容について研究を進めた。

「事例を通して「幼児期の終わりに育ててほしい姿」を考える」

【研究紀要の作成】

毎年実施している課題研究について、冊子にまとめ、県内全ての幼稚園に配布するとともに、関係諸機関に対しても、私立幼稚園の実践の様子を知っていただくため、配布している。平成 29 年度研究紀要では上記のテーマについての研究結果を記載した。このように、毎年、研究のテーマを決め、私立幼稚園ならではの実践的取り組みを実施している。

② 愛知県私立幼稚園連盟が実施する教員研修

愛知県の私立幼稚園には、5,000 人余りの教員が勤務している。日々の保育での実践にあたって、学びの機会を持つことは重要である。愛知県私立幼稚園連盟としては、平成 29 年度は下記の研修会を開催した。

平成 29 年度研修名	講座数	参加者数
① 新規採用教員園外研修会	年間 10 講座	参加者 276 名
② 2 年目教員研修会	年間 3 講座	参加者 264 名
③ 3 年目教員研修会	年間 3 講座	参加者 250 名
④ 中堅教員研修	年間 3 講座	参加者 120 名
⑤ 園長・主任研修会	年間 3 講座	参加者 100 名
⑥ 新幼稚園教育要領研修会	年間 3 講座	参加者 149 名
⑦ 特別支援教育研修会	年間 3 講座	参加者 100 名
⑧ 保護者対応研修会	年間 3 講座	参加者 100 名
⑨ 環境教育研修会 A	年間 3 講座	参加者 55 名
⑩ 環境教育研修会 B	年間 3 講座	参加者 23 名

③ 関連団体の実施する研修への参加

研修会は、愛知県内にとどまらず、関連諸団体とも連携し、多岐にわたる研修や研究を実施している。

研究大会等	内容・開催地
東海北陸地区教育研究大会	参加及び研究発表 平成 29 年度 福井市で開催
幼児教育実践学会	参加 平成 29 年度 札幌市で開催

④ 愛知県内地区別研修会の開催

以上のような研究・研修の他に、近隣幼稚園が集まって身近に研修を実施することも多くなってきている。こうすることで、より多くの教職員が共通のテーマで研修を受け、保育実践につなげていくことができるようになってきた。

平成 29 年度は、春日井・一宮・豊川・豊橋・安城で開催された。

以上のように、様々な研究・研修が実施されているが、幼児教育に対する考え方は日々進歩しており、学ぶ機会を得ることなくして、より良い保育実践を望むことはできないという考えの下、研修への参加が定着してきている。

(公益社団法人愛知県私立幼稚園連盟とりまとめ 平成 30 年 5 月)

～ 私立中学校・高等学校における「グローバル化への対応」の主な取組事例 ～

学校名	取 組 内 容
愛知高等学校・中学校	アメリカ（高1・2希望者）、オーストラリア（中3・高1・高2希望者）への海外研修、台湾の姉妹校との交流
愛知工業大学名電高等学校	カナダのサレーを中心に語学研修及び異文化体験（15日間程度、希望者）
愛知工業大学名電中学校	語学研修（オーストラリア、希望者12人、16日）、少人数英会話（全生徒）、JICAワークショップ（1年全員）、国際理解ワークショップ（2年全員）
愛知みずほ大学瑞穂高等学校	シンガポールへの修学旅行（2月4泊5日）、英語検定への受検推奨
桜花学園高等学校	台湾の姉妹校との交流、カナダ・オーストラリアへの語学研修（15日間、希望者）、オーストラリア修学旅行（2年英語コース、10日間）
菊華高等学校	ニュージーランド（ネイピア）長期留学（1人）、同国夏季語学研修（3人）、国際交流会の実施（台湾高校生来校）、中国語講座の実施、ニュージーランド長期留学（1年）・夏季語学研修（10日間）、英語検定受検推奨、外国人講師による英会話授業
享栄高等学校	海外語学研修（オーストラリアでのホームステイ）、ネイティブ講師による英語授業、体験型施設を利用した年間5回のイングリッシュシャワープログラム
金城学院中学校・高等学校	高校における、総合的な学習の時間「Dignity」、地歴公民科と英語科の合科科目「World Studies」、英語科選択科目「Culture」、英語科「論理・表現セミナー」等
啓明学館高等学校	外国人講師とのチーム・ティーチング（1年、英語表現Ⅰ）、ビジネス英会話（商業科1・2年、英語実務）
至学館高等学校	ニュージーランド留学（普通科留学コース・1年間）、夏期語学研修（カナダ・2週間）2年生対象
椙山女学園高等学校・中学校	中学校：入学前英語教育、夏季休業中のイングリッシュシャワー、多読・多聴の授業、中学校・高校：ネイティブ講師による授業、プリズン語学研修（姉妹校）
星槎名古屋中学校	ハワイ実習（4泊6日）、土曜授業「デンカ先生と学ぶブータン」、外国人講師による英会話
大同大学大同高等学校	海外語学研修（ハワイ15日間、希望者）、「世界一大きな授業」への参加、国連SDGsの実践プロジェクト、JICA協力によるプロジェクト型学習、英語スキルアップ講座（オンライン英会話）
中京大学附属中京高等学校	オーストラリアへの海外語学研修（国際クラス、12日間）
東海中学校・高等学校	外国人講師による英会話授業、海外研修（中3・高1・高2、ニュージーランド・イングランド・スコットランド・アイルランド、アメリカ）、「アメリカキャンプ」（中1・2）
東海学園高等学校	カナダ留学（留学コース2年、1年間）、海外語学研修（カナダ、3週間、希望者）、ネイティブによる少数の英語授業、英検・GTECの受検推奨、国際バカロレア校認可申請中
東邦高等学校	姉妹校の留学生受入、アジア各国訪問団受入、韓国・中国視察団受入、ニュージーランドでの夏期英語研修、英検受検推奨、美術科イタリア修学旅行、ドイツザルツマンシュレー校との交流
同朋高等学校	オーストラリア語学研修（8月）、音楽科オーストラリア修学旅行（3月）、語学プログラム（ネイティブ教員による英会話、週2回）
名古屋中学校・高等学校	メントン・グラマースクール（オーストラリア）との交換留学、イギリス、アメリカ、オーストラリア希望者語学研修、短期交換留学生の受入等
名古屋大谷高等学校	国際理解教育の一環として、オーストラリアの姉妹校と留学生の受入れとオーストラリアでのホームステイを毎年交互に実施
名古屋経済大学市邨中学校・高等学校	語学研修（ニュージーランド7～9月、カナダ3月）、留学生受入（ニュージーランド1人、1年間）
名古屋経済大学高蔵中学校・高等学校	オーストラリア（メルボルン）の語学研修（中3・校3希望者、15日間）、イングリッシュキャンプ（中2全員、旭高原研修センター2泊3日）、留学生の受入（豪州国際協力校2校より）、英検・GTECの受検推奨、eラーニング「すらら」による英語学習（中学全員）
名古屋国際中学校・高等学校	国際理解研修（ロンドン、エドモントン、ロサンゼルス、ボストン、マニラ、オーストラリア、シンガポール・マレーシア、1～8週間、中3・高2）、国際バカロレア・ディプロマプログラムの実施（高2・3の希望者）
名古屋女子大学高等学校	語学研修プログラム（カナダ・イギリス・アメリカ、希望者）、海外修学旅行：シンガポール、マレーシア、夏期海外研修プログラム（アメリカ：希望者）、冬期海外研修プログラム（カナダ・イギリス・アメリカ、フィンランド：希望者）
南山高等学校・中学校	男子部：海外研修[高1：オーストラリア（3週間）、イタリア（1週間）]、留学[中3：ニュージーランド（3か月間）] 女子部：海外研修[高1：イギリス、高1・2：イタリア（1～2週間）]
名城大学附属高等学校	訪日台湾教育旅行受入3回、海外修学旅行（ニュージーランド・ハワイ・台湾）、SGH海外研修（インドネシア・台湾・カナダ）、SSH海外研修（タイ・台湾）、オーストラリア研修（14日間、希望者30名）

学校名	取 組 内 容
愛知啓成高等学校	海外修学旅行(カナダ、シンガポール、マレーシア)、留学(カナダ、ニュージーランド)、語学研修(ハワイ、イギリス)、学校交流(カナダ、香港)、留学生受け入れ、グローバルコースイングリッシュキャンプ等
愛知黎明高等学校	海外友好校からの学校訪問・ホームステイ受入、アメリカ語学研修旅行(2年)
栄徳高等学校	海外修学旅行(アメリカ、カナダ)、留学(カナダ)、語学研修(フィリピン)、姉妹校との交流(ニュージーランド、韓国)、留学生受け入れ、ネイティブ教員による英語授業等
修文女子高等学校	台湾修学旅行(2年生全員)、外国人講師による英会話・ライティング指導(普通科全学年)、実用英語検定・GTEC受験推奨、ハワイ州立大学カピオラニ コミュニティ カレッジとの高大接続協定
聖カピタニオ女子高等学校	オーストラリア短期留学(1年英語コース全員)、アイルランド語学研修(希望者)、イタリア研修旅行(希望者)
星城高等学校	異文化理解等のための国際交流(アメリカ短期留学に加えオーストラリア短期留学を実施)、SGHアソシエイト校としての各種活動(ネイティブによる英語授業、イングリッシュキャンプ、留学生との交流、海外研修・海外修学旅行等)
星城中学校	国際理解教室(留学生との交流会、JICA中部名古屋訪問、天文学講座等)、オーストラリア語学研修、ネイティブによる英会話授業、英検対策講座、イングリッシュキャンプ
清林館高等学校	オーストラリア・フィリピンCPILS語学研修、留学の推進、海外姉妹校との交流(交換留学)、海外修学旅行(台湾姉妹校訪問等)等
聖霊中学校・高等学校	6年間一貫の英語教育、ネイティブ教員による会話指導(中2～高1)、オーストラリアのメルボルンの姉妹校との相互訪問交流(中・高)
大成中学校	語学研修(セブ島:2週間、ニュージーランド:1ヵ月)、姉妹校交流(オーストラリア:2週間、モンゴル:6日間)、グローバルリーナ英語研修(国内:7日間)ネイティブ教員による英会話授業
大成高等学校	語学研修(カナダ:3週間、セブ島:2週間)、海外修学旅行(ハワイ、シンガポール・マレーシア)、長期留学(カナダ:1年間:英語留学コース)、社会貢献活動(カンボジア:5日間)、ネイティブ教員による英会話授業
滝中学校	カナダ研修(卒業後・希望者)
中部大学第一高等学校	「異文化理解」(2年総合)、海外修学旅行(2年希望者)、英語検定受検(1年生普通科)、リスニング英語検定受検(機械電気システム科)
中部大学春日丘高等学校	研修旅行(シンガポール、オーストラリア)、SGHとして英語教育、アジア文化理解
中部大学春日丘中学校	カナダ語学研修(10日間、中3全員)、海外姉妹校との交流(ホームステイ受け入れ)、留学生交流授業
日本福祉大学付属高等学校	フィリピンスタディツアーの実施(7月21日から8月4日参加生徒:10名)、姉妹校フィリピンシラインステイテュート校生徒来日(8月4日から8月13日来日生徒6名)、姉妹校フィリピンシラインステイテュート校生徒との協同学習の実施(①World Youth Meetingへの参加一協同プレゼンテーション②SNSを活用した遠隔授業の実施)
誉高等学校	台湾修学旅行(3泊4日 12月)、英語検定への受験推奨、韓国修学旅行生との交流
愛知産業大学三河高等学校	英会話学校と提携した思考力・表現力育成を中心とする4技能対策授業、海外姉妹校交流・留学(3週間・学期、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)、英語プレゼンテーション(一貫コース)
愛知産業大学三河中学校	オーストラリア語学研修(現地公立学校にて語学学習・ホームステイ)
安城学園高等学校	海外修学旅行(シンガポール・希望者)、留学(1年間、アメリカ、カナダ、オーストラリア)、英語コース・セミナー、留学生受入
岡崎学園高等学校	短期(2週間)・中期(3ヵ月)・長期(1年間)の留学制度(カナダ、ニュージーランド、オーストラリア)
岡崎城西高等学校	会話授業(1年、AET+専任)、国際交流授業(1年総合)、英語演習Ⅱ(英会話)、オーストラリア語学研修
杜若高等学校	海外修学旅行(ベトナム、香港、希望者)、ニュージーランド英語研修(夏季、8日間)
豊田大谷高等学校	オーストラリア短期留学(ギルロイ・カソリック・カレッジ、ホームステイ体験)
南山国際高等学校・中学校	短期留学(アメリカ・ホープウェル)、英語グレード別授業、ネイティブ教員の充実、リベラルアーツの導入、大学英語の受講(高大連携事業)、英語資格試験の推奨
光ヶ丘女子高等学校	海外語学研修(オーストラリア 7・8月29名)、海外研修旅行(ニュージーランド8月28名・台湾7月61名・デンマーク10月19名)、姉妹校留学(オーストラリア・台湾)、留学生受入、外国人講師によるエンパワーメントプログラム(8月)
桜丘高等学校	英語検定全員受検、ニュージーランド1年留学、短期ホームステイ、中国研修、オーストラリア研修(中高一貫2年)、フィリピン研修(中高一貫1年希望者)
桜丘中学校	語学研修(ニュージーランド:8月、中3希望者)、国際体験デー(異文化理解、年5回、中3)
黄柳野高等学校	フェアトレードを広げる活動、ニュースレター発行、ワークショップ・軽トラ市出店(新城市)、英語検定受検
豊川高等学校	中国語講座、夏季各種海外研修、ALTによる授業、イングリッシュルームの開設(ランチタイムにALTを囲んで英会話を楽しむ)
豊橋中央高等学校	ESD推進活動(ユネスコスクール)、World Friday(S.T前10分SDGs 17の世界目標をテーマごと放送、視聴後、全学年クラスで探究)、台湾高校とのアートマイル、海外留学生の受入

(愛知県私学協会とりまとめ 平成30年5月)

～ 私立中学校・高等学校における「学力の向上」の主な取組事例 ～

学校名	取 組 内 容
愛知高等学校・中学校	早朝学習、業後講習、学習合宿、公開授業、研究授業、授業アンケート
愛知工業大学名電高等学校	保護者対象の授業参観、教員相互の授業参観・研究協議、授業アンケート
愛知工業大学名電中学校	「土曜テスト」（全生徒、年7回）、指名補習（全学年、少人数、年5回）、朝学習（週2～3回）
愛知産業大学工業高等学校	7限授業（機械科進学クラス）、基礎学力補習授業（夏季・冬季）
愛知みずほ大学瑞穂高等学校	7限授業（特進）、補習（特進+希望者）、学習合宿（1・2年特進+希望者）
桜花学園高等学校	eラーニング（1・2年英語クラス）、数学・英語グレード別授業（2・3年、理数コース）
菊華高等学校	少人数指導、KIKUKA講座（選択授業）、基礎学力小テスト・検定対策小テスト実施、進学講習（特別クラス対象）、模試対策講習（希望者対象）、模試事後補習
享栄高等学校	少人数クラス編成（特進等）、授業後の補習（商業科・機械科）、特別時間割による遅進指導
金城学院中学校・高等学校	中学校：少人数指導（中3英語科）、高校：「理数探究」セミナー（夏季）
啓明学館高等学校	少人数授業（普通科進学コース、国語・地歴・数学・理科・英語）、土曜・夏・冬講座（希望者）
至学館高等学校	少人数クラス編成（普通科アドバンス）e-learning教材の活用・土曜講座・進学特別講座
相山女学園高等学校・中学校	補習等（中学・高校）、選択授業による少人数指導（高校）
星槎名古屋中学校	本人が目指す進路＝目的に合わせた「目的別クラス」編成、習熟度別クラス（3年数学、2・3年英語）、土曜授業「漢字検定ゼミ」
大同大学大同高等学校	少人数による英語教育（普通科1, 2年）、各教科におけるアクティブラーニング型の授業、タブレットを活用した授業（理科・英語科）、eポートフォリオによる学習管理、進学補習、学習合宿
中京大学附属中京高等学校	習熟度別授業、学習合宿（3泊4日）
東海中学校・高等学校	少人数制・外国人講師による英会話授業（中、高1・2年）、少人数制・英語グレード授業（高2・3年）
東海学園高等学校	早期・業後補習、選択科目による少人数指導、学習合宿・土曜特別講座（特進）、学内教育研修（週2回）による教員の指導力向上
東邦高等学校	中学校内容「ブリッジ学習」、少人数教育（1年英語コミュニケーションイングリッシュ等）、土曜講座、下位者補習、授業アンケート・研修会による教員の研鑽
同朋高等学校	基礎学力検定（1年1学期）、少人数編成（英語表現・数B・美術）
名古屋中学校・高等学校	毎週の確認テスト、進学講座・指名者補習、授業アンケート
名古屋大谷高等学校	夏休み期間中に基礎学力に欠ける生徒への指導・補習、少人数教育（介護福祉基礎・介護実習）、外国人講師とのTTの実施（コミュニケーション英語）
名古屋経済大学市邨中学校・高等学校	少人数授業（英語、3クラス4グループ習熟度別）少人数開講の選択科目（高2・3年）、少人数クラス編成（中・高 特進コース）
名古屋経済大学高蔵中学校・高等学校	早朝学習（毎日10分間、中学全員・高校特進コース）、7限授業・土曜講座・論理エンジン活用（特進コース）、Classi（ベネッセ）を活用したアクティブラーニング（高校全学年）、少人数による進学指導（特進コース）
名古屋国際中学校・高等学校	英語（Native English）1クラス2グループ習熟度別（中1～2年）、目的やレベルに応じて英語を熟達するための放課後のプログラム（LEAP、LEAP High、SEA、IB-Skills/Pre-IB）
名古屋女子大学中学校・高等学校	習熟度別授業、少人数クラス編成（中学、高校）、eラーニング（高校）
名城大学附属高等学校	少人数での探究活動、SSH（「スーパーサイエンスラボ」・「数理探究」）、SGH（「課題探究」）、習熟度別授業（数学・理科）

学校名	取 組 内 容
愛知啓成高等学校	外国人講師による少人数英会話授業、数学・英語の習熟度別少人数授業、全校朝のリスニング学習、e-learningを利用した学習到達度別課題の配信、確認テスト（隔週土曜日）
愛知黎明高等学校	基礎学力テスト、e-learningを活用した特別指導、少人数授業・TT
栄徳高等学校	習熟度別授業（1・2・3年生選抜文理クラス：英語・数学）、少人数教育（Super文理クラス等）
修文女子高等学校	習熟度別少人数教育（普通科国・数・英）、ティームティーチング（家政科）、朝と昼の徹底反復学習、年3回学習コンクール、土曜日フォローアップ補充
聖カピタニオ女子高等学校	習熟度別クラス（2・3年、国・数・英）、少人数選択科目（2・3年）
誠信高等学校	7限授業（特進）、習熟度別クラス（1年、英・数、2、3年、数）
星城高等学校	習熟度別授業の実施（数学・英語）、授業後の英検特別講座、朝の10分間学習（英数国）
星城中学校	少人数教育、コース別授業、土曜授業、補習（授業後、長期休暇）、授業公開・授業アンケートの実施
清林館高等学校	チーム授業（「外国語」の一部で日本人・外国人教師、「情報」教員2人）ICT機器を活用した授業の実施
聖霊中学校・高等学校	到達度別授業（英語：高1・2・3、数学：高1・2）、少人数選択科目（高2・3年）
大成中学校	少人数による英会話授業、確認テスト、補習・補充授業、探求学習・体験学習
大成高等学校	少人数による英会話授業、補習・補充授業、教員相互の授業参観・研究協議、学習合宿
滝中学校	補習授業（成績不振者・週1回）
中部大学第一高等学校	少人数教育（特進、一貫コース）、習熟度別授業（3年英語など）等
中部大学春日丘高等学校	数学、物理、化学、英語で学力別少人数指導、課題探究における大学教員との連携
中部大学春日丘中学校	習熟度別クラス編成（英語）、少人数による補習や学習合宿
日本福祉大学付属高等学校	英語・数学習熟授業の実施（1年生・2年生）
誉高等学校	土曜教育活動、朝学習（週3日）、フォローアップ学習、教育合宿（1年2学期）、基礎学力テスト、保護者対象授業参観、研究授業
愛知産業大学三河高等学校	英数国講座（進学コース、隔週土曜日、外部講師）、映像授業（進学コース）、国数英の習熟度別授業
愛知産業大学三河中学校	特別補習、英検受験指導
安城学園高等学校	外国人講師とのTT（英語表現、英語演習）、e-ラーニングの活用等、数学Ⅰの一部授業をチーム・ティーチング実施
岡崎学園高等学校	習熟度別少人数授業（2・3年特進）、TTによる1クラス2名（数学は3名）での授業（1年ベーシック）
岡崎城西高等学校	30人以下授業（2・3年理科、1・2年芸術、2・3年社会、3年英会話）ICT活用
杜若高等学校	文理コースで習熟度別少人数授業
豊田大谷高等学校	2・3年に理系・文系選抜コースを設置
南山国際高等学校・中学校	ほとんどの授業を30人以下で実施、英語グレード別授業実施
光ヶ丘女子高等学校	習熟度別クラス（英語・数学）、少人数クラス（英語）、2年より文系・理系・福祉系のコース選択、補習授業、課外授業、夏期・冬期・春期講習会、学習合宿（8月・3月）
桜丘高等学校	少人数授業（英数コース、中高一貫コースで教科、文理別授業の選択等）
桜丘中学校	習熟度別クラス（英語：1～3年、数学2・3年）、朝の会でイングリッシュシャワー（7分間の英会話放送）、補習授業（ステップアップ、フォローアップ）
黄柳野高等学校	到達度別クラス編成（国数英）、少人数授業、TT、基礎学習（国数英）
豊川高等学校	情報科目「社会と情報」2クラス3展開、早朝学習、業後補習、探求選択科目・未来創造教科の設定（自分の興味関心にあった科目選択が可能）
豊橋中央高等学校	「くもん学習」（基礎学力定着）、ネイティブによる4技能対策、英検対策、「7つの習慣J」活動、義務教育リメディアル授業、小論文指導、就職補習（社会人へのレジデンス）
藤ノ花女子高等学校	土曜講座

（愛知県私学協会とりまとめ 平成30年5月）